

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202400		
法人名	株式会社 矢嶋商店		
事業所名	グループホームあすか東川口		
所在地	埼玉県川口市戸塚1-13-15		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-...">http://www.kohyo-</a>
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 プログレ総合研究所		
所在地	さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F		
訪問調査日	平成23年1月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あすかでは、1日の流れが決まっておらず、その日にやりたいことを職員・入居者で決め、日々を送っている  
 食事についてもメニューが決まっていないため、その日の入居者の気分で食べたいものを作り、その日の気候によっては、テラスで食事をするなど、少しでも記憶に残るような支援をしている  
 家庭菜園では、植えつけから、収穫までを一緒に行い、収穫物を食事で活用し、喜ばれている

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭生活を日々送る場所ということ考えたならば、これほど自然に、高齢者の生活が出来ることに驚きを隠せない。天候や体調に合わせ、外出やレクリエーションを全員で考えて、楽しめるように協力している。比較的若い職員が多いという特徴があるが、しっかりとした言葉遣いが浸透しており、清々しい雰囲気漂っている。会話の中に、常にユーモアと笑顔が絶えないホームの環境は、微笑ましい限りで、居心地の良さを感じることが出来る。家庭菜園の楽しみを共有しており、収穫をともにして食卓に供していることも、意欲活性に繋げていくことができています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすかがもう一つ増えたことにより、理念を見直しを行い、新たな理念を設置。事業計画書に記し、全スタッフに配布。新人にはOJT時に伝えている	あすかの頭文字に合わせて作成し、掲示している。事業計画書を全職員、全家族に配布、計画の周知徹底を行っている。新人は入職時に研修を受けて、業務を開始している状況がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、挨拶を必ず行い、交流をしている。 また、あすか近くに週に1度、魚屋が来るまで販売にくるため、入居者と買い物に行き、交流を図っている。	近所の公園に来る魚屋、パンの定期販売は利用者の楽しみになっている。好きな和菓子を買っていくこともある。30分程歩ける利用者もおり、希望に応じて、その都度安全面に留意して援助している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1170202400&amp;SCD=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1170202400&amp;SCD=320</a> □	地域の人々に向けての認知症理解はなかなかできていなのが現状。今後は、行事参加等を促し、あすかや認知症について知ってもらう場を作ることが必要だと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に数回の会議で近況報告を行い、ご家族からの意見等ができれば、サービスに反映させている。	年6回実施を計画している。地域包括及び介護保険課の職員の参加があり、連携が取れている。タイミングが合わず町内会に入会していないが、情報は頂ける状況はある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情は、毎月の、ホーム空き情報を役所に提出し報告。運営推進会議のメンバーが介護保険課職員なので、会議の際に、色々な近況を伝えている。	現状の部屋情報を提供している。書類等に関しては市役所が遠方のため戸塚支所の利用が多い。社会福祉協議会から研修案内が頂くことが有るので役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わず、対応している。 新人職員は、OJTにて説明。 玄関の施錠は、設備と立地条件などより、行っているが、希望があれば開錠し、自由に外にでられるようになっている。	歩行出来る利用者が多いので両側の手すりを使い、自由に階段を歩き来している。天候の良い日は2階のテラスで食事をとることができ、利用者には好評である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	埼玉県の虐待対応の手引きを参照している。 日常で、入浴時には、あざや傷がないか全身を確認し、介助にあたっている。また、見つかった場合には、事故報告書にていつできたものなかを確認することを怠らないようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の状況により、家族と相談し、後見人をつけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、質問等あれば、その場で解決し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの意見があった場合には、全スタッフに引継ぎ、サービスに反映させている。	家族アンケートは昨年からは実施している。家族来訪時に意見を頂いた時には、必ず職員に周知して要望に対応し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議にて、スタッフの意見を聞く機会をもっているが、その他の時でも、スタッフが意見を言いやすいような環境を作るように配慮している。	発言できない職員がいないように考慮して、発言の機会を設けている。個人的な悩み、ストレスに対しても、管理者の職員への声掛けにより、早急に解決できる配慮をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ1人1人を見て、アドバイスをし、時には個別で話せるような環境を作り、スタッフにとっても働きやすい職場であるように努めている 半年に1回、職員との面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、OJTに添ってあすか内で研修を行っている。 半年に1回、他施設と事例検討会を行い、新人には積極的に参加できる状況を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半年に1度の他施設との事例検討会にて、各ホームがサービス向上に取り組めるように交流する機軸を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査にてフェイスシートを作成し、ケアプランを作成のもと、対応。入所時は誰もが不安を抱いているため、軽減できるよう、積極的にコミュニケーションをとるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問調査時から入居前まで、少しでも不安を取り除けるように対応し、入居後も、細かく様子を伝えながら面会などのタイミングを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から話を聞き、その人にとって、今何が必要なのかを、今までの経験から推測し、分かりやすく伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何事においても入居者と共に行動することを前提としている。洗濯や食事作りなど、共に生活しているものとして自然体を心がけながら、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお知らせに写真を添付し、その月にどのように過ごしたかを分かるようにしている。また、面会時には、生活の様子、認知症の状況なども説明。家族を交えた外食を行い、介護へ負担を軽減し、楽しんでいただけたよう配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にきたり、思い入れのある場所に外出したりと本人にとって、良い刺激となるよう支援している	利用者が行くコンビニ、美容室等店舗の方との連携が取れている。その日の体調に合わせて趣味の材料を購入したり、個別に飲食店での飲食にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうな時には職員が間に入ることによって未然に防げるよう、また、入居者同士、悪い印象を持たないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらで支援できることは、サービス利用が終了しても行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	決め事をせず自由になるようにし、個々のペースで生活できるよう支援している	その日のことはその日に決めるのが基本であり、天候、利用者の体調を見て希望することを行う。要望を前面に出せる利用者ばかりではないので、個々の思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らし方や、生活歴等を把握し、あすかでも同じ生活ができるよう、環境・一日の流れを配慮し、支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者に何か変化があった際には、どんな小さなことでも見逃さずに全スタッフで共有し、現段階で必要な支援ができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族・スタッフの意見を取り入れ介護計画を作成。 月に一度の会議時に、全入居者の経過確認・改善を話し合っている	玄関の生け花、ぬかみそ漬等の担当者が生活の中で意欲を持続できているので、個々の楽しみ、趣味を利用者全員がもてるように、職員はケアの中から見出せるような援助を目指し実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った支援を行い、気がついた事等は記録に残し、その入居者にとって、よりよい支援ができるように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の意思を尊重し、遠方外出・映画鑑賞など、家族の許可を得て外出している 今年度は、一泊旅行も企画し、半数の方が参加できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣での買い物・公園を活用し、四季を感じながら生活している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	5年前より往診を利用して、月2回の診察をもらっている	あすか全体の主治医が24時間対応での支援をしている。緊急時の点滴の対応事例もある。家族対応のかかりつけ医への受診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないため、常時主治医と連絡できる体制を整え、対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、できるだけ細かく情報提供し、入院中の入居者の様子を把握して、退院後のケア方法を考えている 長期入院にはならないよう、担当医を主治医間で連絡をとり、対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し、家族に説明している 重度化については、毎月のお知らせや面会時などに、認知症について説明などを細かくおこなうようにして、理解を得ている	契約時には家族に向けて、法人の重度化や看取りの方針を説明している。重度化していく中で、家族・医師・職員と話し合いを続け、出来る範囲の対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに添って指導している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、災害時の誘導方法を身につけている	1階は速やかに外へ2階はベランダへ集合するように、消防署立会いのもとに訓練を実施している。近隣の住民への声がけをしているが、日中不在の家庭が多く参加は見られていない。	互いに安心して生活できるように、近隣住民との連携がとれる方法を考え、充実した訓練ができるよう望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対しての言葉遣い・配慮を入社時より教育し、定期的に乱れていかないように、引き締めている	職員の人生経験から言葉使いに差が出ない様、互いに注意ができるような環境作りに心がけ、利用者の気持を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや介護支援に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事は献立を決めず、その日食べたいものが出せるように対応。 体調や天気などから、その日調子がよさそうな人に、個別に対応できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の生活リズムが異なるため、本人のペースで日々が送れるよう、職員は努力している 何がしたいのか、どこにいきたいのかなど、会話の中から聞き出し、対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者によっては、近く的美容院に出かけ、髪をかつとしてくる 行事の際には、準備の一つに化粧・マニキュアなど行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「なんでもいいわよ」と答える方が多いため、選択肢を与え、中から選んでもらうなど、意思を尊重した食事になるように心がけている 足腰が弱い方は、座った状態で食事準備ができるように配慮している	利用者と相談して決めることも多く、各ユニット毎にメニューが違ふことが多い。美味しく楽しく食べることが大切であり、外食、出前、誕生日に際しては個々の希望をふんだんに取り入れ、提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態によって食事量を変え、栄養バランスに関しては、献立表に記入することで、偏った食事にならないようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○災害対策		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて状況を把握し、誘導が必要な人に関しては、誘導を行っている 失敗しても自尊心が傷つくことのないように配慮している	入所時リハパンの利用者も、丁寧な誘導でのトイレ排泄により、布パンでの生活に変わった利用者もいる。便秘傾向の利用者のみチェック表に記録、食事等の配慮を行い、自然排便できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より食物繊維や乳製品等を摂取してもらい、自然排便促している 自然排便が難しい場合は、下剤などを併用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	好きな時間に入浴できるようにしている 入浴の訴えがう訴えが少ない方には、間隔が空いてしまわないように、こちらで適度に声かけし入浴してもらうようにしている	夜間20時迄対応可能。午前中の対応も随時。季節の柚子湯、菖蒲湯等も歳時記にあわせて、実施している。拒否が見られる場合も職員が連携をとり清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、昼寝をする人もおり、その人に合わせた支援をしている 安心して眠れるよう、布団干しやシーツ交換を定期的におこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の入居者の薬を把握、理解し支援している 分からなくなった時にはいつでも確認できるように、処方箋をファイルに閉じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好き嫌い、得手不得手を把握し、入居者に合わせて支援している 楽しみごとを行うことによって、日々の生活でのストレス軽減も図る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいとの要望があれば希望に沿って散歩にいっている。 普段行くことができないような場所は、家族の許可、協力をもらい出かけている その他、月3回ほど外食日を設けている	手作り弁当を持ち、近隣にピクニックの実施や家族の了解を得て1泊の際には夜間の介助の不安もなく安心して宿泊出来ている。今後も楽しい思い出になるような、外出支援を考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金が管理できる入居者にはお金を渡し、好きなものを購入してもらっている。お金を持つことにより不安が出てくる方には、一緒に買い物に行き、欲しいものがあれば、預かり金で支払うようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの訴えがあれば、いつでも電話可能		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、清潔保持に努めている。リビングに写真や手作りカレンダーを飾ることで入居者同士の会話のきっかけにもなっている	冬季は基本床暖房になっている。エアコンは嫌いな利用者が多いので使用していない。夏季は扇風機使用者もいる。身体状況によっては一緒に掃除をしたり、利用者と一緒に清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・ソファ等、さまざまな場所で各々の入居者が自由に過ごせるように、環境に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたタンスやTV、イス等、使い慣れたものを持ってきてもらい、少しでも今まで住んでいた住居と変わらずに過ごせるよう、居心地に配慮している	個々の部屋の区別のため、ドアの引き戸の模様を変えて認識を助成している。カーテンも好みのものを使用。お湯の出る洗面台、クローゼットは備え付けの状況がある。使い慣れたものが配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどには表札を貼り、自力でトイレに行けるよう配慮。 居室のタンスにも、何が入っているかラベルを貼り、自分で整理することができるようにしている		